

# 第18回大月市秀麗富嶽十二景写真コンテスト総評

第18回を迎えた大月市「秀麗富嶽十二景写真コンテスト」の審査は本年1月27日、大月市役所三階の会議室に於いて、午後1時30分に開始され、227点におよぶ応募作品を厳正に審査決定して、午後4時に無事終了した。

審査員は、石井由己雄大月市長、東京電力、白簾史朗後援会々長・萩原剛、大月市観光協会々長・小林浩治に加え、白簾史朗が審査員長としてこれを行った。

審査の方法は、従来通りに十二の山頂とそれに付随する副山頂より撮影・応募された作品を一番山頂から順に一堂に並べ、まず予備審査を一次・二次とおこない、最終候補作品を三次にて打ち切り、次の山頂からの作品に移るようにした。一山頂について平均3点から5点の候補をさらに厳選の審査、先ず最優秀賞から順に、推薦2点、特薦3点の計6点を決定、次いで各山頂作品から1点を選出するが、同傾向の作品、前回まで選出した作品に類似の作品も出来るだけ外し、新しい見解とカメラアイに依って撮影した作品を決定した。しかし、このコンテストの主旨目的は飽くまで大月市の観光宣伝の媒体を得るものであるから、いわゆる独善的な、単なる写真的といわれる主観の行き過ぎた作品を選ぶことはない。美しく、神々しく、いかにこの地がこのすばらしい眺望に恵まれているか、を他にアピールする作品を選ぶのである。

こうして数度にわたって行われた審査に依って、本年もまた素晴らしい26点の作品を得ることができた。227点中の26点、これはほぼ10分/1の確率で狭き門である。また、一山頂一点入選が原則であるが、その山頂作品に適当な良作がなかった場合、さらに上位、最優秀、推薦2、特選3の中に同山頂の作品が入選した場合もあり、今回のように雁ヶ腹摺山、百蔵山、御前山、大蔵高丸などが重複していることを了承されたい。

これによって今年も例年にも増してすぐれた作品を得ることができた。これについては勿論のこと、市当局をはじめ、各関係の関係者及びスポンサーのご協力、そして何よりも作品を提供して下さった応募者の皆さまのご尽力の賜である。

ここに謹んで御礼を申し述べると共に、また来期もすばらしい作品をご提供下さることを心からお願いする次第である。

有難うございました。

平成23年2月

大月市「秀麗富嶽十二景写真コンテスト」 審査員長 白 簾 史 朗